

読書委員が選ぶ

「2

- ①矢野寛治著『伊藤野枝と代準介』
(弦書房、2100円)
- ②佐宮圭著『さわり』
(小学館、1600円)
- ③上野誠著『天平グレート・ジャーニー』
(講談社、2500円)



三浦 佑之

古代文学研究者、
立正大教授

世の中にはすごい人がいるものだとつくづく感じました。①の主人公、大杉栄とともに憲兵隊に惨殺された伊藤野枝は奔放としか表現できない生き方を貫きます。②が描くのは、鶴田菊枝から鶴田錦史へと変身した天才琵琶奏者の生涯です。女から男へとノンストップで突っ走ります。③の、嵐に遭って漂流し何万キロもの旅をした8世紀の遣唐使・平群広成へぐらのひろなるは奔放さとは逆の忍耐の人。3人に、君ももう少し頑張れと励まされました。